

特集

わたしのおすすめの3冊

本が読みたくなる季節を前に、「わたしのおすすめの3冊」をご紹介します。今回もけやきにご縁のある方々に執筆を依頼。それぞれがテーマを設定し、本を選びました。どんな人がこの3冊を選んだのでしょうか？想像するのも楽しいかもしれません。

「私の旅」と「本」

旅といえばガイドブックや旅の雑誌を参考にしますが、行き先が決まったらチェックするおすすめの本があります。『歴史散歩』シリーズ、山川出版社。47都道府県ごとに編まれ、執筆者は、地元の現役及び元高校の先生たちが中心で、地域の歴史や文化が丁寧に紹介してあります。姫路城へ行ったときは『兵庫県の歴史散歩』で見つけた赤穂市坂越へ寄ってきました。赤穂塩の積出港としても利用された坂越港があり、旧坂越浦会所の藩主専用の部屋からは坂越の海が一望できました。

旅のお供として、その土地出身作家の作品やそこが舞台になった文庫本を持っていますが、旅の後で読む本は、また違った感動があります。

『荷拔け』岡崎ひでたか、新日本出版社。古文書にある牛方二十六人衆の「荷拔け事件」をもとにしているそうです。「荷拔け」とは、荷主に頼まれた送り荷を横領して逃げてしまうことですが、人助けのための「荷拔け」をしたのです。農作業のあいまに牛の背に荷物を積んで運ぶ牛方をしたり、冬には自分で荷を背負って運ぶボッカをしたり。でも暮らしは楽ではありません。その上、賃金が減らされるというのです。そこで計画された「荷拔け」の話です。長野白馬を旅して、滑り落ちそうな急坂のある千国街道（塩の道）を歩き、今も残る「牛方宿」を見て帰ってからこの本に出会いました。読み進んでいくにつれ、千国街道のけわしい道、そこを歩く牛方と牛、ボッカたちの姿が目の前に立ち上がってきたのです。感動的な読書経験でした。

もう1冊、旅の後にお勧めの本です。日本三大山城の一つ奈良高取城址へ行きました。ガイドの方に、司馬遼太郎が高取城址について書いていると教えてもらいました。『街道をゆく7』司馬遼太郎、文藝春秋／朝日文庫。「高取城は石垣しか残っていないのがいい」同じものを見ても、視点や感じたことが違うものだと思います。旅から帰って『街道をゆく』を読むのが楽しみです。（左京区 京の風）

わたしたちにとって「水」とはー

短い梅雨とその後の晴天続きで水不足、かと思うと連日の局地的豪雨、氾濫で被災した人たちは断水で水が手に入らない…、と今年も異常気象による水循環の異変が連日ニュースで伝えられています。その「水」について、改めて知り考えるための手がかりとなる科学読み物を紹介します。

1冊目は絵本、かこさとし『みずとは なんじゃ?』（鈴木まもる絵、小峰書店）。水を通して共生の大切さを伝えたいと、作者が死の直前まで取り組んでいた作品です。地球と生物の歴史や水の循環からはじまり、水の三態など水の性質や暮らしの中の水・身体の中の水・地球上の水の循環など深い内容を幼児にもわかりやすく教えてください。最後に作者は読者に語り掛けます。私たちが「水」に感謝し海や川を汚さないことが、他の生物との共存につながるのだと。

科学絵本をもう1冊。オリガ・ファジェーエヴァ『水のはなし 水をめぐる冒険の旅へ』（横山和江訳、鈴木出版）は、水色を基調にした美しいイラストと文章で「水」を語ります。テキストの量が多いですが、小学校中学年以上なら読めるでしょう。

最後の1冊は、ダン・ノット『ライフライン：ネット・電力・水“見えないシステム”から知る世界のなりたち』（桃井緑美子訳、河出書房新社）。3つのテーマのうち半分弱が「水」に割かれ、コマ割り漫画で「水のシステム」を解いていきます。世界規模の水不足を解決する方法や新技術が語られ、「生物多様性を豊かにしているのは水循環である。だからボクたち人間のいろんな水のシステムの大きさに気づこう。そしてそのとてつもない影響を知ろう。」と読者に呼び掛けます。「14 歳の世渡り術プラス」シリーズの一冊ですが、おとなの方もぜひ。 （会員 M.N）

自分の考えを見つめなおすきっかけになった本

「自分の考えを見つめなおすきっかけになった本」をテーマに、3冊を選んだ。

まず1冊目は、「敗因の研究 決定版」（日本経済新聞運動部編、日本経済新聞社）だ。この本ではスポーツの世界における33の敗北が、その過程や背景、後日談とともに描かれる。はかなく美しい敗北が好きな日本人にぴったりの作品に思えるが、むしろ、判官鼻頂の我々は勝負を見る目の再考を求められる。例えば、「人種差別だ」との発言で騒動を引き起こし、5度綱取りに失敗した小錦は何に敗れたのか。相撲の伝統か、日本人の偏見か、ケガか、慢心か。この本は敗北の研究ではなく「敗因の研究」だ。敗因の向こうに迫った1冊である。

2冊目は、香港返還前に彼の地を再訪した作者がかつての記憶とともに香港のあり様を綴った「転がる香港に苔は生えない」（星野博美、文藝春秋）だ。この本を読んだのは香港国家安全維持法が施行されてしばらくのことだ。香港には繁栄のイメージがあり、輝かしいビル群と活発な民主派の活動が私の香港像を形成していた。しかし、この本で描き出される香港の姿は想像以上に混沌としていた。ただこれは悪い意味ではない。その多様性は必ずしも整ったものではないが、「ありとあらゆる矛盾を彼らは飲み込み、黙って受け入れるふりをして、まんまと他に類を見ない美味しいスープに仕立ててしまったのである。」（p.622）。外から捉えられる香港の範囲がいかに狭いか気づかされた作品だ。

最後の1冊は、「空白の五マイル チベット、世界最大のツアンポー峡谷に挑む」（角幡唯介、集英社）だ。作者が人類未踏の地であったチベットのツアンポー峡谷に挑んだ記録と、彼を探検に駆り立てるものへの思索が記されている。私は、高校、大学とワンダーフォーゲル部に入ったが、その一つのきっかけはこの本だった。もっとも、私に危険な探検に繰り出す勇気はない。ただ、人知の及ばない地域に身を投じた角幡氏の文章は、頭でっかちな私の視界を大きく広げてくれた。体を動かされた1冊である。

（左京区 K.S）

滋養を摂りたい時の本

暑さによる疲れや冷房で冷えた体に、また気温が下がっていくこれからの季節に、スープをひと匙。そんな気分の時にこちらの本はいかがでしょう。

標野凧『本のない、絵本屋クッタラ おいしいスープ置いています。』（ポプラ文庫）。小説の舞台は、店主・広田が、ちょっとくせ者の八木と営む本屋兼カフェ。悩めるお客さんにスープを出し、話を聞き、ピタリと悩みに寄り添う絵本を提供します。こんなお店あったら、私もスープと絵本で癒されたい。作中に出てくる絵本は実在の絵本なので、作品に合わせて読んでみるのも楽しいと思います。

次は、スープの短編アンソロジーはいかがですか？ 早川茉莉編『スプーンはスープの夢をみる 極上美味の 61 編』（筑摩書房）。編者あとがきに「スープは、人の気持ちや命を助けてくれる。」とあります。北大路魯山人・島崎藤村・林芙美子から江國香織・宮下奈都・村上春樹まで、古今作家のおいしそうなスープの短編作品を読むだけでも気持ちが救われる心持ちです。内容もレシピ、思い出の随筆、物語、歌詞と幅広く楽しめます。私は「スープと言ったらユーミンのあの曲だよ」と思っていた歌詞が載っていて、嬉しくなりました。良かったらそのページを読んでみてくださいね。

最後に、見ているだけで温くなる絵本です。こいでやすこ『おなべ おなべ にえたかな?』（福音館書店）。キツネのきつこがにんじんスープのお鍋の番をしていたのに、味見のしすぎでお鍋がからっぽ。さてどうしましょう？ 春の暖かさが絵からも文からも伝わってくる楽しい絵本です。作中に繰り返し出てくる「おなべ おなべ にえたかな？」のフレーズは、スープ作りが楽しくなる言葉です。皆さんも、早速スープを作ってみませんか？

（会員 山田）

言葉にまつわる3冊

流れていく言葉を、自分の前でせき止め、考える本を。

まずは「言葉と歩く日記」（多和田葉子、岩波新書）。「日本語とドイツ語で小説を書きながらベルリンで生活し、よく旅に出る人間の頭の中を日記という鏡に映してみようと思った」とはじめにある。多和田は言葉をあらゆる角度から観察し、日記に散りばめる。日本語と他言語を比較し、日本語の使い古された言い回しを新たな表現で生き返らせ、音楽や演劇、朗読など音から言葉を考える。彼女の小説を読むと、この人の頭の中を覗きたいと思うが、「日記という鏡」に映った頭の中は、やはり凡人には捉えがたい、不思議の国だった。

次は日々言葉と向き合う校正者、牟田都子の「文にあたる」（亜紀書房）。「あたる」とは「照合して確かめる」（広辞苑）こと。先の多和田の感覚による言葉の捉え方と対照的に、牟田は他者が書いた言葉を、そこにふさわしいものかひとつひとつ丁寧に確認していく。ただ、言葉の正しさはゆらぐし、正しければいいわけでもない。書いた人はどのような思いでその言葉を選んだのか、校正者は書く人と読む人の間で悩みながら、言葉を整えていく。

最後に「今日拾った言葉たち」（武田砂鉄、暮しの手帖社）。雑誌「暮しの手帖」の同タイトルの連載をまとめたもので、2016年から2022年上半期までの、新聞やテレビ、SNSから拾った言葉が集められている。パンデミック、東京五輪、ウクライナ侵攻、元首相銃撃事件と、収載されている期間に起こった出来事は、どれも歴史に残るものである。これらの出来事を前に、断定的で短く鋭い言葉を乱射する風潮に対し、武田は「じっくり考えるのを諦めたくない」という。

言葉を発するときも、受け取る時も、もっと丁寧な姿勢をもちたいと、これらの本を読むと思う。（会員 S.A）

けやきの本棚

No. 74

93 番目のキミ

山田悠介著 文芸社 2013年

主人公は異性の前で良い恰好をしたがる大学生ですが、正直、最初はぜんぜんかっこよくありません。しかし、最新型ロボット（シロと名付けられる）と、シロを通

して出会った人々との関わりで少しずつ変わっていきます。

近年、人工知能、AI はだれでも簡単に利用できる、身近なものになりました。私も chatGPT と会話してみて、その時に、本作に登場するロボット・シロのことを思い出しました。

今、ぜひ読んでほしい一冊です。（左京図書館 高橋）

TOPICS 図書館で発表会

図書館資料を使った学びの成果や趣味を生かした作品を展示する「図書館で発表会」を、2月2日から3月9日まで、左京図書館で行いました。15回目となる今回は、10名の方の作品が展示されました。

子どもたちの自由研究は、オオカマキリ・テントウムシ・アブラムシと虫に関するものが目立ちます。また、平和をテーマにした紙芝居や、ロシアについて調べたレポートなど、世相を映し出す大人の作品もありました。

手芸、工芸も力作揃い。ぬいぐるみから、カラフルな平織りのコースター、木製の杖までバリエーションがあり、目を楽しませてくれます。

恒例となった地域の中学校の作品展示もありました。図書委員おすすめの本のポップや調べ学習のパネルが並び、図書館が地域の人たちの学びの発表の場として定着してきたことを感じました。(澤田)

今回は「木・林・森」、「韓国の絵本」というテーマのコーナーと、司書さんのおすすめの絵本を集めたコーナーを設けました。また、しかけ絵本が置かれ、繊細な本をおそろおそろ手にして、ページをめくる姿が見られました。

午前と午後に各1回、おはなし会もあり、親子が手あそびやお話を一緒に楽しみました。子どもたちはもちろん、付き添いできたお父さん、お母さんが、あれもこれもと絵本を手にして読み、長い時間を過ごしてくださいました。

(澤田)

REPORT 2025年度 図書館友の会けやき

総会・図書館交流会

2025年6月13日

図書館友の会けやき総会

今回で27回目となる総会は、木俣左京区社会福祉協議会事務局長と大道左京図書館館長にお越しいただき、けやき会員12名が参加して行われました。

まず、木俣事務局長から、区社協の事務所が昨年度末に左京区役所内に移転し、図書館から遠くなってしまったが、今年もけやき総会に出席できてうれしく思うと、挨拶をいただきました。左京区役所で、念願だった「ほっとふらっとさきょう」というイベントを実施できることになり、生きづらさを感じている人が足を運んだり、福祉に携わる人が出会ったりできる場にしたいと述べられました。

続いて、大道館長から、新しい図書館構想に向けた「京都市図書館サードプレイスプラン」の一環で、館内の模様替えをしていると報告がありました。新しい構想の検討に

TOPICS えほんのひろば in きょうと

2025年4月20日

毎年恒例の「えほんのひろば in きょうと」が、4月20日曜日、左京図書館上階の会議室で行われました。この催しは、左京図書館とけやきの共催で、子ども読書の日記念事業として行っているものです。

「えほんのひろば」では、すべての絵本が表紙が見えるように並んでいます。その数約300冊。そのため、会場に入ると、ぐらりと絵本に囲まれているような感覚になります。

奇譚ルーム

はやみねかおる著 朝日新聞出版 2018年

私がおすすめする本は、「奇譚ルーム」です。奇譚というのは、珍しい・不思議な話のことをいいます。主人公「ぼく」は、SNSの交流系アプリ「ルーム」の、奇譚ルームに招待されました。

すると、マードラー（殺人者）と名乗る人物が現れ…。マードラーの正体は？ 1人ずつ殺していくとは？ 考えれば考えるほど、現実と仮想現実の違いがわからなくなっていく、そんな話になっています。衝撃のラストなので、ぜひ読んでみてください。

(中1 かれん)

あたり、中央・右京中央・左京の3館が試行的に館内整備を行うことになり、左京図書館が居心地の良い場所になるように、これからも努力していきたいと述べられました。

2024年度活動報告、2025年度活動方針案については会計報告、予算案とともに、出席者の拍手をもって承認されました。

図書館交流会

総会に続いて行われた図書館交流会には、大道左京図書館長と倉本副館長、けやき会員らが参加しました。

まず、左京図書館の2024年度の活動状況について、大道館長から説明がありました。

◇2024年度の左京図書館の利用状況

入館者数 20万7000人（前年比0.5%減）地域館の中で3番目に多く、全体では7番目

貸出冊数 49万8000冊（ 〳 2.8%減）地域館の中で1番目に多く、全体では3番目

◇2025年度左京図書館職員体制

職員8名、臨時職員10名、ボランティア登録6名

昨年度の新しい取り組みとしては、高野児童館への出張読み聞かせや電子書籍読みくじ（市全体の取り組み）など、また京極幼稚園で移動図書館「青い鳥号」を使って、出張読み聞かせと出前図書館を実施したと報告がありました。

つぎに、参加者から図書館へ質問や要望などを行いました。

新しい雑誌を置いてほしい、という要望に対しては、雑誌は継続して買うものなので、廃刊・休刊になったタイミングで、新規の購入を検討すると回答がありました。

「京都市図書館サードプレイスプラン」はどのように進んでいくのか、という質問に対しては、試行実施の具体的な内容等については未定（6月時点）。決まったことは月1回のけやきとのミーティングでお知らせしていきたいとのことでした。

また、養正学区の市営住宅跡地に新しい左京中央図書館を期待する声もあるが、という質問に対しては、図書館としては特に聞いていないとのこと。新左京中央図書館については、どのような館が望まれるのか、新図書館を期待す

る声があることをどのように行政に伝えていけばよいか、などについて、参加者で話し合いました。小さくてもまず声をあげることが大事との意見がでました。

図書館とけやきが持続的に良い関係を保てていること、そして毎月の図書館とのミーティングが大切なつながりとなっていることを確認しました。

けやきは「友達」として図書館を助け、ときに苦言を呈し、図書館が市民の拠り所となりうる場所であるようにともに活動していきたいと、会を締めくくりました。

（澤田）

けやきの活動記録

2025年4月～9月

4/19 「えほんのひろばinきょうと」前日準備

4/20 「えほんのひろばinきょうと」開催

「おはなし会」（赤ちゃん向け、幼児・小学生向け）同時開催

5/9 けやき総会案内・活動報告資料 印刷・発送

区社協・ボランティアグループ連絡会 出席

6/13 2025年度図書館友の会けやき総会・図書館交流会 開催

第1回左京区地域福祉推進委員会 出席

第1回ほっとふらっとさきょう 視察

7/24 第2回ほっとふらっとさきょう 読み聞かせ実施

9/22 ニュースレター74号 印刷・発送

<事務局会議><図書館とのミーティング>（主に第1金曜日）

5/9, 6/6, 7/4, 9/5

<図書館おたのしみ会に協力>（第4土曜日11:00～11:30）

4/26, 5/24, 6/28, 7/26, 8/23

<絵本学習会>（第4金曜日、3,7,12月は第2金曜日、8月は休み）

4/25, 5/23, 6/27, 7/11

<「赤ちゃん絵本ふれあいタイム」サポーター活動>

（毎月第3木曜日10:30～12:00）

4/17, 5/15, 6/19, 7/17, 8/21, 9/18

図書館友の会 けやき の仲間になりませんか

知りたい 調べたい 本の世界を楽しみたい

そんな私たちの望みをかなえ 一人一人の世界を豊かにしてくれる場所

それが私たちの願う図書館です

京都市左京図書館が市民みんなの図書館としていきいきとあり続けるために、私たち市民利用者は何ができるのか考え、活動したいと1999年に「けやき」を立ち上げました。図書館のスタッフとともに、左京図書館はじめ京都市図書館を支え、育てていきませんか。

次のような活動をおこなっています

であいの森

左京図書館のおたのしみ会（毎月第4土曜日 11:00）に協力。
絵本を読んだり、ブックトーク・人形劇やおはなしも。

「赤ちゃん絵本ふれあいタイム」サポーター

毎週木曜日 10:30 ～ 12:00、左京図書館絵本コーナーで絵本探しのお手伝いをしたり、絵本を読んだりしています。

誰もが利用できる図書館を考える

図書館の現状を調べ学び、図書館に提案をしています。

ニュースレター編集部

友の会のニュースレター「けやき」を作成し、図書館と利用者を結ぶけやきの活動の情報を発信しています。

事務局

けやきの活動の企画提案。図書館行事に企画・協力。各グループ間や左京図書館との連絡調整を行っています。

絵本学習会

毎月第4金曜日 10:00 ～。取り上げた絵本をみんなで読み合い語り合う楽しい学習会です。

講演会・学習会

主催または図書館との共催で年に数回、地元の講師を中心に様々な興味深い講演会・学習会を行っています。

- ◆入会希望の方は年会費 500 円をそえ、下記郵便振込口座にお申し込み下さい。活動費の寄付も歓迎。

郵便振込口座 口座番号 00920-8-156914 番
口座名称 図書館友の会 けやき

- ◆入会・活動への参加などお問い合わせは下記の事務局へメールで。
- ◆図書館友の会けやきホームページをぜひご覧ください。
ニュースレターのバックナンバーも掲載しています。

けやき情報版

左京図書館 「絵本入門講座」

10月15日（水） 10時～12時

講演「絵とテキストから読み解く

行きて帰るし「ものがたり絵本」～行き先で出あうもの～」

講師：中川あゆみさん

10月24日（金） 10時～12時

講座「やってみよう読み聞かせ」

講師：左京図書館司書さん

科学絵本・科学読み物ブックトーク

「雪・霜・氷―姿を変える水のふしぎ」

講師：島崎真紀子さん

左京合同福祉センター3階（左京図書館上階）大会議室にて
事前申し込みは不要

子どもに本の読み聞かせをしてみたい方はもちろん、絵本や児童書に興味がある方はぜひご参加ください。

赤い羽根共同募金



ニュースレターは赤い羽根共同募金からの助成を受け作成しています。

編集後記

6月の図書館交流会でも話題になった“京都市図書館に居心地の良い空間を創出する”プロジェクトが動き出しています。左京図書館では10月18日から約1か月間、「コーヒーと本を楽しむひととき」というテーマで企画が展開されるそう。いつもの図書館がどのように変身するのか、楽しみに待ちたいです。（澤田）

今号特集、さまざまなテーマで「わたしのおすすめの3冊」が語られています。本選びの切り口が興味深く、目の前に執筆者が集って順に一人ひとりから本の話聞いているような、味わい深い特集となりました。集まった15冊の本をきっかけに秋の読書体験が広がりますように。（島崎）

◇けやき 第74号 2025年9月22日

◇制作 図書館友の会 けやき ニュースレター編集部

題字：吉政 富美子 デザイン：伊藤 理恵子

◇発行 図書館友の会 けやき

HP : <http://totomo-keyaki.com>

Mail : info@totomo-keyaki.com